

# 坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004

——平成16年度試掘・立会い調査報告書——

2005.3

坂城町教育委員会

# 坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004

—平成16年度試掘・立会い調査報告書—

2005.3

坂城町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成16年度の町内遺跡の試掘調査及び立会い調査の報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫の補助金及び町費にて対応した。
- 3 調査の体制  
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）  
担当者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）  
齋藤 達也（坂城町教育委員会学芸員）  
協力者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、塚田さゆり、萩野れい子（以上、町臨時職員）  
滝沢袈婆夫、塚田 智子、前田 忠、増田 勇（以上、(財)更埴地域シルバー人材センター）
- 4 事務局の構成  
教育長 大橋 幸文  
生涯学習課長 塚田 好一  
文化財係長 助川 朋広（前出）  
文化財係 齋藤 達也（前出）  
朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、関 貴子、谷川 直和、千野 美樹、  
塚田さゆり、萩野れい子（以上、臨時職員）
- 5 本書の執筆・編集は助川・萩野が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、( ) 内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。
- 3 報告書抄録に記載された北緯・東経の座標値については、平成14年4月1日から施行された測量法改正に伴う、世界測地系に基づいた数値を記載した。

# 目 次

例 言	
凡 例	
第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第 1 節 地理的環境	1
第 2 節 歴史的環境	1
第 II 章 試掘調査の結果	6
1 田町遺跡群 5	6
2 日名沢遺跡 1	8
3 込山 C 遺跡Ⅲ	10
4 上五明条里水田址 12	13
5 上五明条里水田址 13	16
6 宮上遺跡 1	18
7 御堂川古墳群前山支群 3	20
8 町横尾遺跡 1	23
9 町横尾遺跡 2	25
10 四ツ屋遺跡群 9	27
第 III 章 立会調査の結果	30
報告書抄録	

# 第I章 坂城町の遺跡の立地と環境

## 第1節 自然的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接地点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。町の地形は、中央部を貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだした扇状地によって形づくられた小盆地（坂城盆地）に特徴がある。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、千曲市・真田町・上田市との市町村界を形成し、西は大山林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、千曲市・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が狹隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候も関連し、工業が主要な産業となっており、農業では、りんご・バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

## 第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げながら、町の歴史的環境について概略的に触れておきたい。（括弧内の数字は3、4ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す。）

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の土ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は南条地区の保地遺跡（3-1）より採集されたものであるが、本出土品以外には後期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が坂城地区の和乎A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された坂城地区の込山C遺跡（30-3）からも押型文系の土器片が少量出土しているが、これらは現在整理中である。この他に縄文時代前期・中期の土器も出土している。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺物の出土が『考古学雑誌』に報告されている（関 1966）。後者については、縄文時代後期～晩期に位置づけられる再葬墓が検出されており、中でも約19個体分の人骨が埋葬された2号墓址が注目される。その他、坂城地区の込山D遺跡（30-4）から昭和初期に採集された透光器土偶の頭部がある。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡（1-7）で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構が検出され、土器、石器、土製品、及び鉄製品が出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には中之条地区の仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる（註1）。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置付けられた（若

林 1999)。後期古墳では、町内でもいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。内部施設に千山川水系最大の横穴式石室を持ち、室身長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落は町内においても多く検出され、特に環状に土器を配列された祭祀遺構が検出された南条地区の青木下遺跡(1-8)が注目される。青木下遺跡は現在整理中である。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群(8)とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡(8-1)、上町遺跡(8-2)、東町遺跡(8-3)、宮上遺跡(8-5)、北川原遺跡(8-6)、豊鏡堂遺跡(20)、開畝遺跡(21)で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落址が判明している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窟跡(32)があり、瓦の生産が行われていたことが判明し、本遺跡で生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末～9世紀頃に存在していたとされる込山鹿寺(54)に用いられた他、上田市信濃国分寺・国分尼寺、千曲市正法庵寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

平安時代後期、寛治8年(嘉保元)(1094)に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の坂城地区の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡があるが城自体は現存していない。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚(55)をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡(53)がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査が行われたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置付けられている(若林 1999)。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置付けられるものであった。

江戸時代に入ると、現在の坂城地区を主体とする坂木村、中之条地区を主体とする中之条村には幕府の代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。このことから、この地域を重要視していたことが看取される。代官所は最初、坂木(61)に置かれたが、明和4年(1767)に焼失し、その後、安永8年(1779)には中之条に代官所(67)が置かれるようになった。

以上、近世までの坂城町の歴史を概観した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

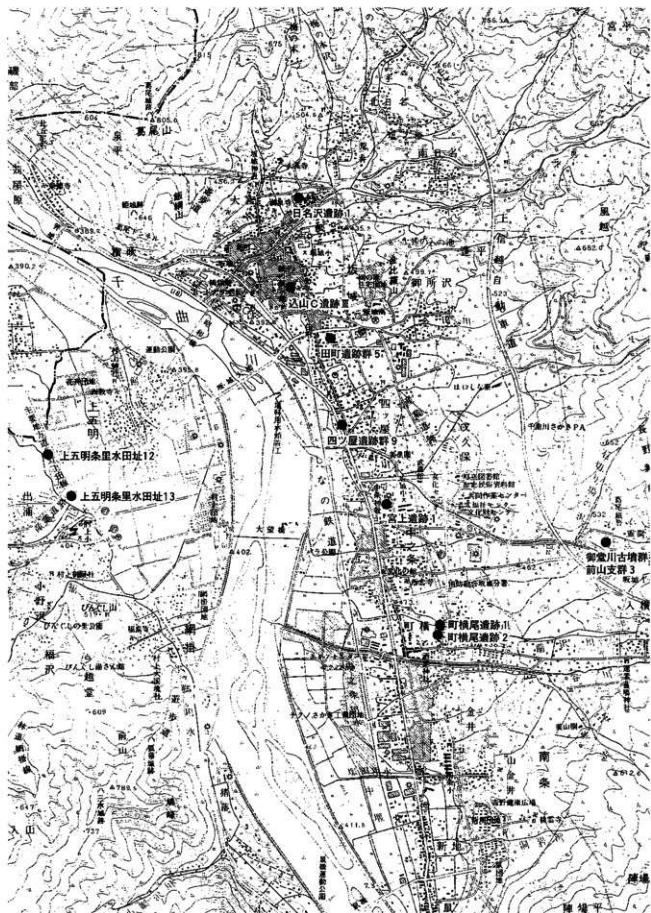
#### 参考文献(五十音順・敬称略)

- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡―第1次調査報告』1979『開畝製鉄遺跡―第2次調査報告』1993『宮上遺跡Ⅱ』1995『東真遺跡』1996『豊鏡堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』1996『寺浦遺跡Ⅱ』2000『開畝遺跡Ⅲ』2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』2002『保地遺跡Ⅱ』
- 関 孝一 1966『長野県埋蔵文化財発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 裕ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編(一)
- 柳沢 亮 1998『第5節 開畝遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』(財)長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』『第11章 観音平経塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』(財)長野県埋蔵文化財センター



坂城町遺跡分佈圖

遺跡番号	遺跡名	種類	時代	遺跡番号	遺跡名	種類	時代
1	鹿島遺跡群 鹿島遺跡	墓塚址	弥生~平安	34	坂外遺跡	遺跡	平安
-1	鹿島遺跡群 鹿島遺跡	墓塚址	弥生~平安	35	平河遺跡	館址	縄文
-2	鹿島遺跡群 鹿島遺跡(窪)	墓塚址	弥生~平安	36	杉平遺跡群	墓塚址、館址	縄文~平安
-3	鹿島遺跡群 日中自然遺跡	墓塚址	弥生~平安	-1	杉平遺跡群 杉平A遺跡	墓塚址	縄文~平安
-4	鹿島遺跡群 日中自然遺跡(窪)	墓塚址	弥生~平安	-2	杉平遺跡群 杉平B遺跡	館址	縄文
-5	鹿島遺跡群 山田遺跡	墓塚址	弥生~平安	-3	杉平遺跡群 杉平C遺跡	館址	平安
-6	鹿島遺跡群 山田遺跡	墓塚址	弥生~平安	37	北山山古墳	古墳	古墳(後期)
-7	鹿島遺跡群 東下遺跡(窪)	墓塚址	弥生~平安	38	村上古墳群	古墳	古墳(後期)
-8	鹿島遺跡群 東下遺跡	水田址、館址	弥生~平安	39	坂外遺跡	館址	縄文
2	金井野遺跡群	墓塚址	縄文~平安	40	北山古墳群	古墳	中世
-1	金井野遺跡群 金井野遺跡	墓塚址	縄文~平安	41	北山古墳群西側	古墳	古墳(後期)
-2	金井野遺跡群 金井野遺跡(金井野)	墓塚址	縄文~平安	-1	北山古墳群西側	古墳	古墳(後期)
-3	金井野遺跡群 基本下遺跡	墓塚址	縄文~平安	-2	北山古墳群西側	古墳	古墳(後期)
3	金井野遺跡群	墓塚址	縄文~平安	42	南ノ木遺跡	館址	縄文
-1	金井野遺跡群 押出遺跡	墓塚址	縄文~平安	43	東田遺跡	館址	縄文
-2	金井野遺跡群 山本下遺跡	墓塚址	縄文~平安	44	長尾遺跡	館址	中世
-3	金井野遺跡群 大木久下遺跡(清泉小学校敷地)	墓塚址	縄文~平安	45	山崎沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-4	金井野遺跡群 渡玉遺跡	墓塚址	縄文~平安	-1	山崎沢古墳群 山崎沢1号墳	古墳	古墳(後期)
4	関ノ谷遺跡	館址	古墳	-2	山崎沢古墳群 山崎沢2号墳	古墳	古墳(後期)
5	江崎遺跡	館址	中世	-3	山崎沢古墳群 山崎沢3号墳	古墳	古墳(後期)
6	新堀沢遺跡	館址	縄文~平安	-4	山崎沢古墳群 山崎沢4号墳	古墳	古墳(後期)
7	北塚古墳	古墳	古墳(後期)	-5	山崎沢古墳群 山崎沢5号墳	古墳	古墳(後期)
8	中之島遺跡群	墓塚址	縄文~平安	-6	山崎沢古墳群 山崎沢6号墳	古墳	古墳(後期)
-1	中之島遺跡群 宇屋遺跡	墓塚址	縄文~平安	-7	山崎沢古墳群 山崎沢7号墳	古墳	古墳(後期)
-2	中之島遺跡群 上野遺跡	墓塚址	弥生~平安	46	山崎沢遺跡	墓塚址	弥生~平安
-3	中之島遺跡群 東野遺跡	墓塚址	弥生~平安	47	後沢古墳群	古墳	古墳(後期)
-4	中之島遺跡群 北山遺跡	墓塚址	縄文~平安	-1	後沢古墳群 小野沢1号墳(彌生社古墳)	古墳	古墳(後期)
-5	中之島遺跡群 北山遺跡	墓塚址	縄文~平安	-2	後沢古墳群 小野沢2号墳	古墳	古墳(後期)
-6	中之島遺跡群 北山遺跡	墓塚址	縄文~平安	-3	後沢古墳群 小野沢3号墳	古墳	古墳(後期)
9	南条沢古墳(塚古墳)	古墳	古墳(後期)	-4	後沢古墳群 小野沢4号墳(「ヤクウ古墳」)	古墳	古墳(後期)
10	香川古墳群	古墳	古墳(後期)	48	小野沢古墳群	墓塚址	弥生~平安
-1	香川古墳群 八幡尾古墳	古墳	古墳(後期)	49	小野沢古墳群 館塚古墳	古墳	古墳(後期)
-2	香川古墳群 八幡尾古墳 刈野古墳	古墳	古墳(後期)	50	坂本古墳群	古墳	古墳(後期)
11	入所川遺跡	館址	平安	51	坂本遺跡	館址	中世
12	香川古墳群 上野古墳	古墳	古墳(後期)	52	坂本遺跡	館址	中世
13	坂本遺跡	館址	中世~平安	53	坂本遺跡	館址	中世
14	柳屋川遺跡群 山崎古墳	古墳	古墳(後期)	54	山崎古墳群	中世	平安
15	山崎遺跡	館址	縄文	55	鎌倉平遺跡	館址	中世
16	柳屋川遺跡群 山崎古墳	古墳	古墳(後期)	56	山崎古墳群	中世	平安
17	柳屋川遺跡群 山崎古墳	古墳	古墳(後期)	57	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-1	柳屋川遺跡群 山崎1号墳	古墳	古墳(後期)	58	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-2	柳屋川遺跡群 山崎2号墳	古墳	古墳(後期)	59	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-3	柳屋川遺跡群 山崎3号墳	古墳	古墳(後期)	60	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-4	柳屋川遺跡群 山崎4号墳	古墳	古墳(後期)	61	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-5	柳屋川遺跡群 山崎5号墳	古墳	古墳(後期)	62	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-6	柳屋川遺跡群 山崎6号墳	古墳	古墳(後期)	63	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-7	柳屋川遺跡群 山崎7号墳	古墳	古墳(後期)	64	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-8	柳屋川遺跡群 山崎8号墳	古墳	古墳(後期)	65	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-9	柳屋川遺跡群 山崎9号墳	古墳	古墳(後期)	66	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-10	柳屋川遺跡群 山崎10号墳	古墳	古墳(後期)	67	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-11	柳屋川遺跡群 山崎11号墳	古墳	古墳(後期)	68	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-12	柳屋川遺跡群 山崎12号墳	古墳	古墳(後期)	69	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-13	柳屋川遺跡群 山崎13号墳	古墳	古墳(後期)	70	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-14	柳屋川遺跡群 山崎14号墳	古墳	古墳(後期)	71	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
18	柳屋川遺跡群 山崎古墳 二層古墳	古墳	古墳(後期)	72	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
19	柳屋川遺跡群 山崎古墳	古墳	古墳(後期)	73	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
20	藤枝家遺跡(山崎家遺跡)	墓塚址	縄文~弥生	74	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
21	山崎遺跡	館址	弥生~平安	75	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
22	山崎遺跡	館址	弥生~平安	76	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
23	山崎遺跡	館址	弥生~平安	77	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
24	山崎遺跡	館址	弥生~平安	78	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
25	山崎遺跡	館址	弥生~平安	79	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
26	山崎遺跡	館址	弥生~平安	80	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
27	山崎遺跡	館址	弥生~平安	81	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
28	山崎遺跡	館址	弥生~平安	82	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
29	山崎遺跡	館址	弥生~平安	83	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
30	山崎遺跡	館址	弥生~平安	-1	山崎古墳群 山崎1号墳	古墳	古墳(後期)
-1	山崎遺跡群 山崎1号墳(北上)	古墳	古墳(後期)	-2	山崎古墳群 山崎2号墳	古墳	古墳(後期)
-2	山崎遺跡群 山崎2号墳(山崎)	古墳	古墳(後期)	-3	山崎古墳群 山崎3号墳	古墳	古墳(後期)
-3	山崎遺跡群 山崎3号墳(山崎)	古墳	古墳(後期)	84	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-4	山崎遺跡群 山崎4号墳(山崎)	古墳	古墳(後期)	85	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-5	山崎遺跡群 山崎5号墳(山崎)	古墳	古墳(後期)	86	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
31	日笠沢遺跡群	墓塚址	弥生~平安	87	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-1	日笠沢遺跡群 日笠沢遺跡	墓塚址	弥生~平安	88	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
-2	日笠沢遺跡群 日笠沢遺跡	墓塚址	弥生~平安	89	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
32	土井ノ入遺跡	館址	弥生~平安	90	山崎古墳群	古墳	弥生~平安
33	平林遺跡	館址	縄文				



試掘調査位置図 (1 : 25,000)



## 第Ⅱ章 試掘調査の結果

### 1 田町遺跡群 5

所在地 坂城町大字坂城6625-1、  
6628-1

事業主体 ㈱天田不動産

事業名 宅地造成事業

調査期間 平成16年4月15日～  
平成16年4月16日

面積 588㎡ (105㎡)

担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

#### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

田町遺跡群は、坂城町遺跡分布図によると入田川や日名沢川によって形成された、扇状地の扇中部や扇端部付近に位置する古墳時代から平安時代の散布地とされている。本遺跡群内では、今まで4度の試掘調査が実施された経過があるが、遺跡の状況が判然とない遺跡である。

今回、株式会社天田不動産による宅地造成事業が計画されたことから、開発対象地内の遺跡の状況を確認するために、試掘調査を実施することとなった。



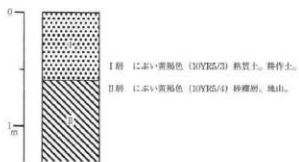
トレンチ掘削状況 (北東より)

#### 調査結果

開発対象地の本来の傾斜面は東から西に傾斜していたが、現状が水田として利用されていたことから、2段の平坦面が形成されていた。今回の調査では現況地形を優先し、南北方向に2箇所の特レンチを設定して遺構の有無の確認を行った。いずれの特レンチからも遺構及び遺物の検出は見られなかった。



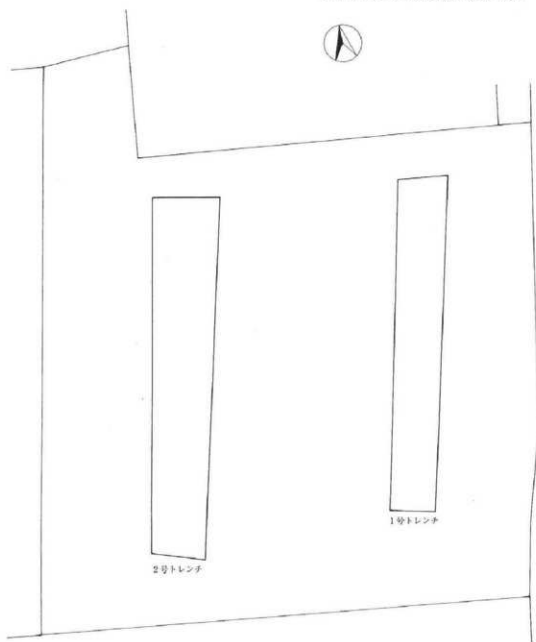
1号トレンチ検出状況 (北より)



基本層序模式図



2号トレンチ検出状況 (北より)



試掘トレンチ設定図 (1 : 400)

## 2 日名沢遺跡1

所在地 坂城町大字坂城字日名沢

1965-1

事業主体 伊藤 進

事業名 集合住宅建設

調査期間 平成16年4月22日～

平成16年4月26日

面積 1223㎡ (327㎡)

担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

日名沢遺跡群は、坂城地区の日名沢・大宮・新町に広がる遺跡群で、本遺跡群内には日名沢遺跡と丸山遺跡と村上氏館跡が存在している。

日名沢遺跡は、坂城町遺跡分布図によると日名沢川によって形成された、弥生時代～平安時代にかけての集落址とされている。本遺跡群内では、中世に位置づけられる村上氏館跡内において試掘調査が今まで2回実施されているが、日名沢遺跡内では試掘調査の実施例がなく、遺跡の詳細が不明な状況である。

今回、伊藤進氏による集合住宅建設が計画され、関係者間での遺跡の保護措置を講じるための協議もたれたわけであるが、遺跡の破壊が余儀なくされる結果となり、試掘調査を実施して、遺跡の状況を確認することとなった。



1号トレンチ検出状況 (北西より)



2号トレンチ検出状況 (北西より)

### 調査結果

開発対象地内の東西方向に長いトレンチを2箇所設定し、遺構の有無について確認を行った。調査対象地内での基本土層はI層が耕作土、II層が粘質土、III層がII層に砂礫を多量に含んだ粘質土層で、日名沢川の影響により砂礫の含有のあり

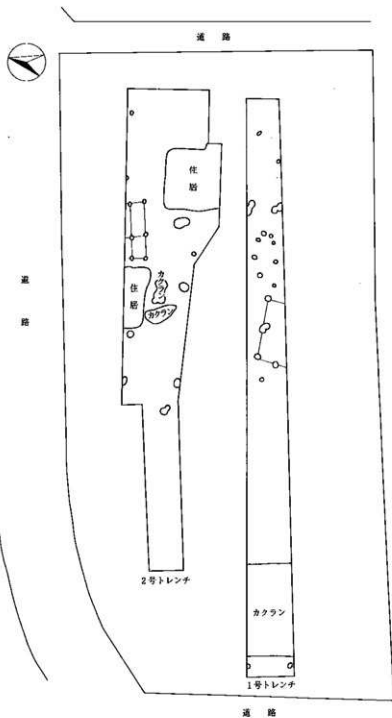
方に違いが見られるようであった。今回の遺構検出は、Ⅱ層及びⅢ層上面において行なった。

調査の結果、1号トレンチ及び2号トレンチにおいて、地表下約40～60cmの深さで、遺構・遺物が検出された。検出された遺構では竪穴住居址2棟、掘立柱建物址2棟、土坑址などがあり、調査対象地の東側に遺構の集中が見られた。出土遺物には土師器や須恵器があったが、双方のトレンチからの出土は認められるものの、量的にはあまり多い状況とは言えない状況であった。対象地内の遺構の検出状況を見ると、方形プランを呈する竪穴住居址や掘立柱建物址の存在が認められ、出土土器からも古墳時代～平安時代の所属時期が与えられる。以上のことから、本対象地内には古墳時代～平安時代の集落址が存在していると考えられた。

今回の試掘調査の結果、開発対象地内には遺跡が存在していたため、再度保護協議がもたれ、遺跡の保護措置について検討がなされた。その結果、掘削による遺跡の破壊を少なくするために、当初の建築計画を変更し、対象地に盛土を施す事となった。遺跡は盛土保存され、掘削による遺跡の破壊を最小限に留めることとし、やむを得ず深く掘削する部分は、工事に際し立会い調査を実施するといったことで了解され、工事着手時に立会い調査を実施することとなった。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 300)

### 3 込山C遺跡Ⅲ

所在地 坂城町大字坂城6313-2、  
6313-5、6313-10

事業主体 坂城町商工課

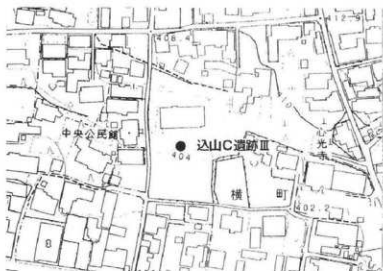
事業名 コミュニティ施設建設

調査期間 平成16年7月20日～

平成16年7月23日

面積 1863㎡ (172㎡)

担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

#### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

込山C遺跡は、坂城地区の込山に所在し、坂城町遺跡分布図によると縄文時代から平安時代にかけての集落址とされている。本遺跡は周辺の横町、立町、旭ヶ丘などに広がる込山A・B・D・E遺跡などとともに込山遺跡群に含まれる遺跡である。

今までに行なわれた試掘調査や発掘調査の状況から、込山遺跡群について以下に触れておきたい。

込山B遺跡(平成11・13年度発掘調査)では弥生時代中期・古代に位置づけられる堅穴住居址の検出や特殊なものとして鉸具などの出土がみられた。込山C遺跡(昭和36年)では縄文時代中期の住居址の検出、込山C遺跡(平成12年発掘調査)では縄文時代前期・古代の住居址などの検出があった。込山C遺跡Ⅱ(平成13年発掘調査)では弥生時代後期の住居址などの検出があった。込山D遺跡(平成15年度試掘調査)では古代の住居址の検出や縄文時代の土器・石器の出土が見られた。昭和初期には本遺跡内から縄文時代晩期に所属すると考えられる遮光器土偶が収集されており、同遺跡内には晩期頃の集落が広がっていると思われる。また、本遺跡群内には古代の寺院跡とされる込山廃寺が所在



1号トレンチ検出状況(西より)



2号トレンチ検出状況(西より)

し、現在の坂城小学校の敷地及びその周辺に位置したものであると考えられている。昭和28年、坂城小学校のグラウンド拡張工事の際、平坦面を上にした大きな6個の自然石が一定の間隔によって配置されており、栗石群のものを合わせると7本の柱が想定されたという。その配置は南北方向に等間隔で2列並び、東側に3個、西側に4個といった状況であった。当時の所見では金堂あるいは講堂と思われる建物が1棟存在したことが推定されている。また、出土した遺物には平瓦・丸瓦、鍍瓦、布目瓦などがあり、本遺跡出土の瓦と同様な瓦が上田市信濃国分寺僧寺東回廊址などから出土していることから、瓦の製作されたと考えられる土井ノ入窯跡で製作されたものが、信濃国分寺に送られていたと推定されている。

今回、坂城町商工課が展示施設である「鉄の展示館」に隣接した「コミュニティ施設」建設を計画した。平成13年度には鉄の展示館建設に先立ち坂城町教育委員会が主体となって、発掘調査を実施した経過があるが、その時の発掘調査所見では、以前に建設されていた工場建設時及び解体時によって大きく遺跡が破壊されていたといった状況があった。今回の事業対象地においても前回の発掘調査対象地と同じ敷地内ということもあって、どの程度遺跡が破壊されているのか、また、既に遺跡が破壊されてしまっていて残っていないことも予想されたため、前述した観点から、試掘調査を実施した。

### 調査結果

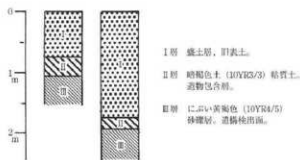
調査は建物が建設される予定部分に3箇所トレンチを設定して、遺跡の状況を確認した。調査の結果、対象地には盛土が施されていたため、遺構の検出は地表下1m～2mのところで行うといった状況であった。すべてのトレンチから以前の建築に伴うコンクリート



3号トレンチ検出状況（西より）



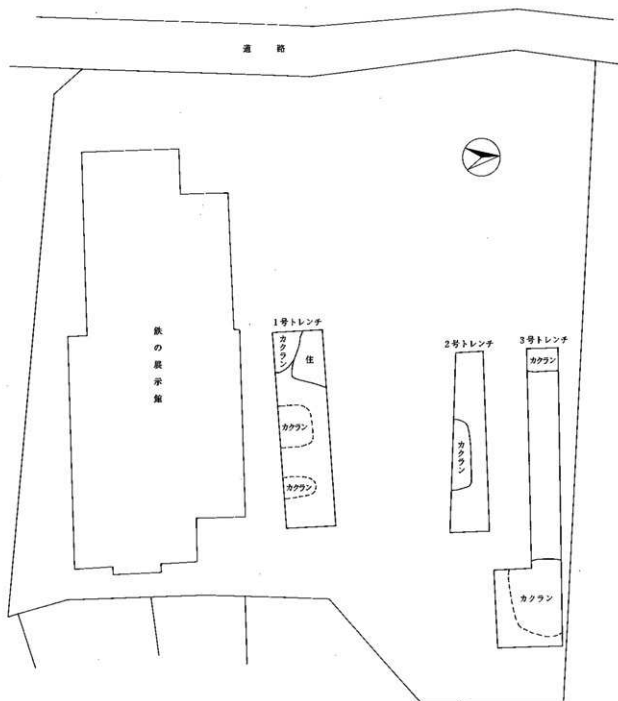
トレンチ完掘状況（西より）



基本層序模式図

塊や攪乱された状況が確認できたが、1号トレンチにおいては堅穴住居址1棟の検出があった。

今回の試掘調査の結果、本対象地内には遺跡が存在していることが判明し、建設主体の坂城町商工課との調整を図った結果、遺跡の破壊が余儀なくされることとなり、その後記録保存を前提とした発掘調査が実施された。



試掘トレンチ設定図 (1 : 300)

## 4 上五明条里水田址12

所在地 坂城町大字上五明字中村436、

437-1、438-1

事業主体 株式会社 竹内製作所

事業名 駐車場、資材置場建設

調査期間 平成16年8月4日

平成16年8月5日

面積 2232㎡ (161㎡)

担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は坂城町の千曲川左岸である村上地区の上五明、綱掛、上平に所在する平安時代から近世にかけての条里水田址である。本遺跡内では今まで7回の試掘調査と4回の発掘調査が実施されており、徐々にではあるがその概要がわかり始めてきている。その概要を記しておく、平成6年度実施された道路建設に伴う発掘調査では、平安時代の仁和4(888)年に起きたとされる千曲川大洪水による、氾濫砂層に被覆された水田址が検出された。平成9年度の道路建設に伴う発掘調査では平安時代(9世紀~11世紀)の集落址の検出、平成12年度の道路建設に伴う発掘調査では、近世以降の水田址の検出があった。平成14年度の店舗建設に伴う試掘調査では、奈良~平安時代の竪穴住居址が検出された。平成15年度の工場建設に伴う試掘調査では、古墳時代~平安時代の竪穴住居址の検出があった。以上のとおり、条里水田址と扱われている遺跡ではあるが、遺跡が広範囲に広がり、水田址や集落址が存在する場所も見られた。これは、遺跡の立地などが多分に影響した結果として、遺跡の性格が異なっていると考えられている。

今回、新たに株式会社竹内製作所の駐車場



トレンチ掘削状況 (西より)



1号トレンチ検出状況 (西より)





2号トレンチ検出状況（東より）

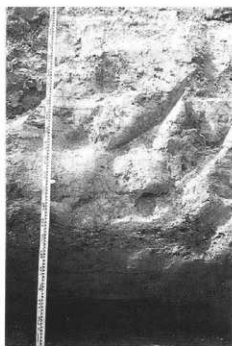
及び資材置場建設が計画された。対象地は平成9年度の発掘調査地点から北西に約500m、平成12年度の発掘調査地点から北西に約500m、平成14年度の試掘調査地点から北西に約400m、平成15年度の試掘調査地点から東に約100mの距離にある。

#### 調査結果

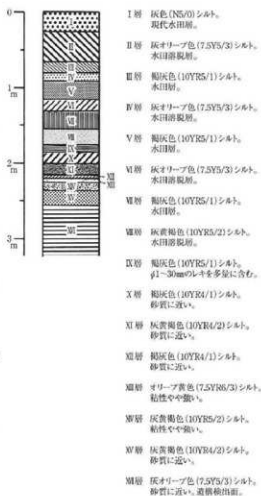
開発対象地付近は前述のとおり、数回にわたる試掘調査や発掘調査によって、古墳時代から平安時代の集落址や古代以降の条里水田址が広がっている地域である。今回の調査では開発対象地内に2箇所のトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。

対象地は千曲川の左岸の沖積地に所在し、遺構検出面が地下深く埋蔵されており、今回の試掘調査地では約2.5mの深さにて遺構が検出された。北よりに設定した1号トレンチでは、土坑址やピットが検出され、2号トレンチでは土坑址とピットが1基ずつ中央部から検出された。遺構は北側に集中する傾向が見られ、平成15年度実施の上五明条里水田址11の試掘調査では、古墳時代から平安時代の集落址が検出されていることを考慮すると、遺跡の集中は北側及び東側に見られるものと推測される。

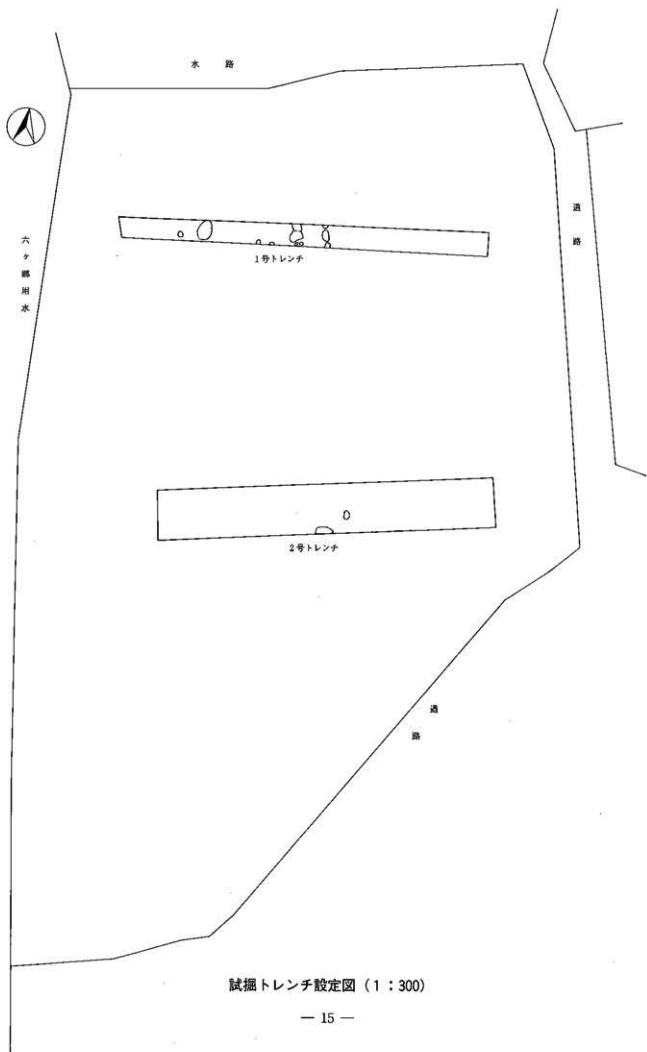
調査の結果、対象地内から遺構・遺物が検出されたため、開発に際し、遺跡の保護措置が必要と判明した。協議の結果、対象地は盛土を施して駐車場及び資材置場とするため、遺跡は保護できるものと考えられる。



2号トレンチ基本層序（南より）



基本層序模式図



## 5 上五明条里水田址13

所在地 坂城町大字上平字島寺510、512、

513、514

事業主体 株式会社竹内製作所

事業名 駐車場及び資材置場建設

調査期間 平成16年8月18日～

平成16年8月24日

面積 2715㎡ (130㎡)

担当者 齋藤 達也



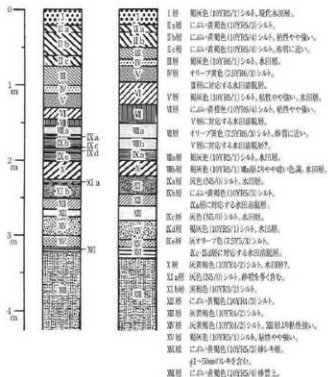
試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は、坂城町大字上五明、上平、網掛に広がる平安時代から近世にかけて形成された条里水田址で、千曲川によって形成された沖積地上に立地する。本遺跡内には、集落址も存在する状況が過去の調査から判明している。今回、株式会社竹内製作所による駐車場及び資材置場建設が計画されたため、遺跡の状況を確認するため試掘調査が実施された。



トレンチ掘削状況 (東より)



基本層序模式図



2号トレンチ検出状況 (西より)

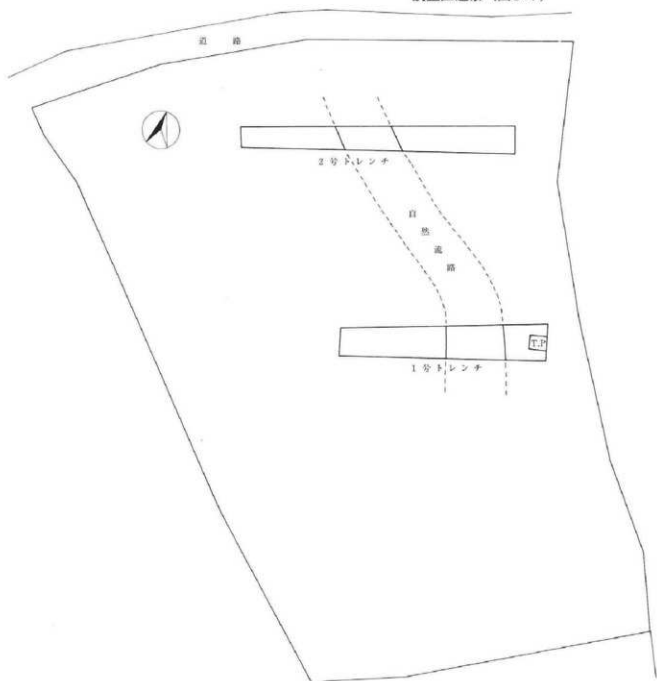
## 調査結果

開発対象地に2箇所のトレンチを設定して遺跡の確認を行ったが、遺構・遺物の検出は見られなかった。対象地は出蒲沢川の流路にあたる場所と思われ、基本層序からもその堆積状況が看取された。

以上のことから、開発対象地には遺跡が存在しない状況が判明した。



調査区近景（西より）



試掘トレンチ設定図（1：400）

## 6 宮上遺跡 1

所在地 坂城町大字中之条918  
事業主体 株式会社桜井製作所  
事業名 倉庫・社員食堂建設事業  
調査期間 平成16年9月7日～  
平成16年9月9日  
面積 1044㎡ (130㎡)  
担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

宮上遺跡は、坂城町大字中之条に広がる中之条遺跡群の一部で、縄文時代～平安時代の集落址とされている。同遺跡群は御堂川によって形成された扇状地の扇中央部に位置する寺浦遺跡、上町遺跡、東町遺跡、北浦遺跡、宮上遺跡、北川原遺跡の6遺跡が含まれている。宮上遺跡での調査例は平成3、4、7、9年度に発掘調査された宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡があげられ、弥生時代～平安時代までの複合遺跡であることが判明している。

今回、株式会社桜井製作所による倉庫及び従業員の食堂施設の建設が計画され、遺跡の状況を確認する必要が生じた。対象地は宮上遺跡の発掘調査地点から直線距離にして北西約200mの距離に位置している。



トレンチ掘削状況 (東より)

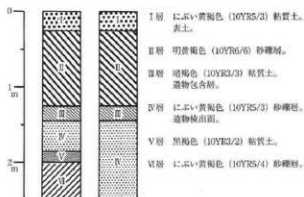
### 調査の結果

調査対象地に東西方向に2箇所のトレンチを設定して遺跡の状況を確認した。1号トレンチでは西側に時期不明の土坑址が検出され、御堂川の旧河川と思われる自然流路との重複関係が認められた。2号トレンチではやや東よりに特殊遺構が検出された。

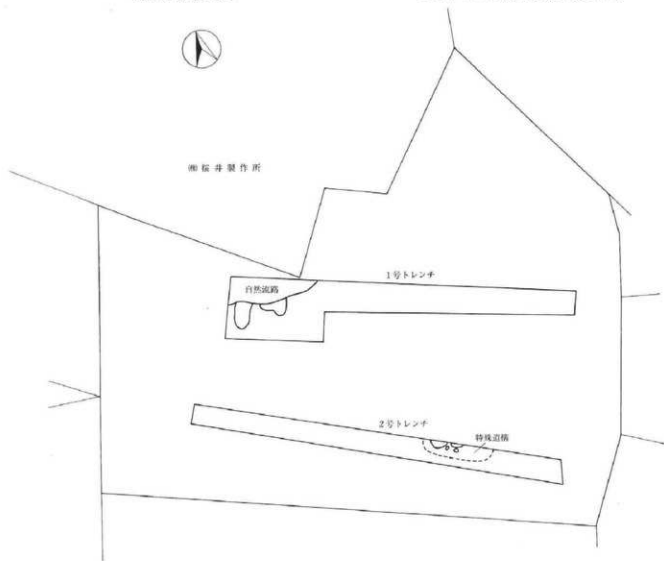


1号トレンチ検出状況 (東より)

調査の結果、開発対象地には遺跡が存在していることが判明したため、関係者による保護協議の結果、当初の計画よりも掘削深度を浅くすることによって、遺跡の保護層が確保できるように設計が変更されることとなり、遺跡は保護されることとなった。



2号トレンチ検出状況 (東より)



## 7 御堂川古墳群前山支群 3

所在地 坂城町大字中之条1814-1 他  
 事業主体 坂城町商工課  
 事業名 工業団地造成  
 調査期間 平成16年9月29日～  
 平成16年10月1日  
 面積 18886㎡ (436㎡)  
 担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

御堂川古墳群は坂城町の中之条地区に所在する古墳群で、御堂川の形成した扇状地の扇頂部付近に所在している。御堂川古墳群は5つの支群によって構成され、御堂川の右岸上流から下流に前山支群、山田支群、東平支群が所在し、左岸では上流から山崎支群、山口支群が分布している。御堂川古墳群の中で最大にして遺存状況が良いのが前山支群で現在14基の古墳が確認されている。前山1号墳と2号墳については、昭和48・49年に『坂城町誌』編纂のため、坂城町教育委員会による発掘調査が実施されている。調査の結果、前山1号墳では横穴式石室内部から土師器・須恵器の他に金銅製の耳環や白玉、帯金具、鉄鍔など出土し、出土遺物の時期から6世紀後半、7世紀中葉、8世紀の所属時期が与えられ、耳環等の出土状況から数回にわたる追葬が想定されている。また、葛尾組合敷地拡張時に破壊されてしまったが、前山4号墳からは全長93cmの鉄製の直刀が出土している。以上の結果から前山支群は古墳時代後期の群集墳と考えられている。

平成13年度には斎場建設による前山支群2の試掘調査が実施されたが、対象地



1号トレンチ検出状況 (北より)



2号トレンチ検出状況 (南より)

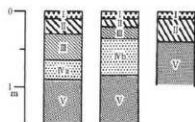
は削平等を受けた場所であったため、遺構が検出されなかったが、試掘調査時の所見では削平によって破壊されてしまった可能性が高いとされている。

今回、坂城町商工課による工業団地造成が計画され、遺跡の状況を確認するため試掘調査を実施した。調査地点は平成13年度試掘調査地点から南西に約100mの場所である。

### 調査の結果

調査対象地は南西方向に傾斜する斜面にあたり、同事業対象地内では約15mの比高差が見られる。この斜面に対し、南北方向を主体とした5箇所のトレンチを設定し、遺構の有無の確認を行なった。対象地は段々畑となっており、開墾した時に盛土や削平が実施されており、本来なら東西方向の試掘トレンチの設定による堆積状況の確認が好都合であったが、盛土による高低差が認められ危険であったため、南北方向のトレンチとしたわけである。遺構の検出は基本土層のV層である、にぶい黄褐色粘質土にて行った。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺物・遺構の検出はなく、対象地には遺跡が存在していない可能性が高いことが判明したが、今回の試掘調査は用地買収等の都合により一部分のみの実施であったことより、別の地点から遺跡が検出されることも考慮した結果、工事に際し立会い調査を実施することとした。



- I層 にぶい黄褐色 (10YR2/3) 粘質土、黄土。
- II層 黄褐色 (10YR5/5) 粘質土、耕作土。
- III層 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粘質土、築地造成時の盛土。
- IVa層 黄褐色 (10YR3/3) 粘質土。
- IVb層 黄褐色 (10YR2/2) 粘質土、粘性強い。
- V層 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粘質土。根を多量に含む。礫山。

基本層序模式図



3号トレンチ検出状況 (南より)

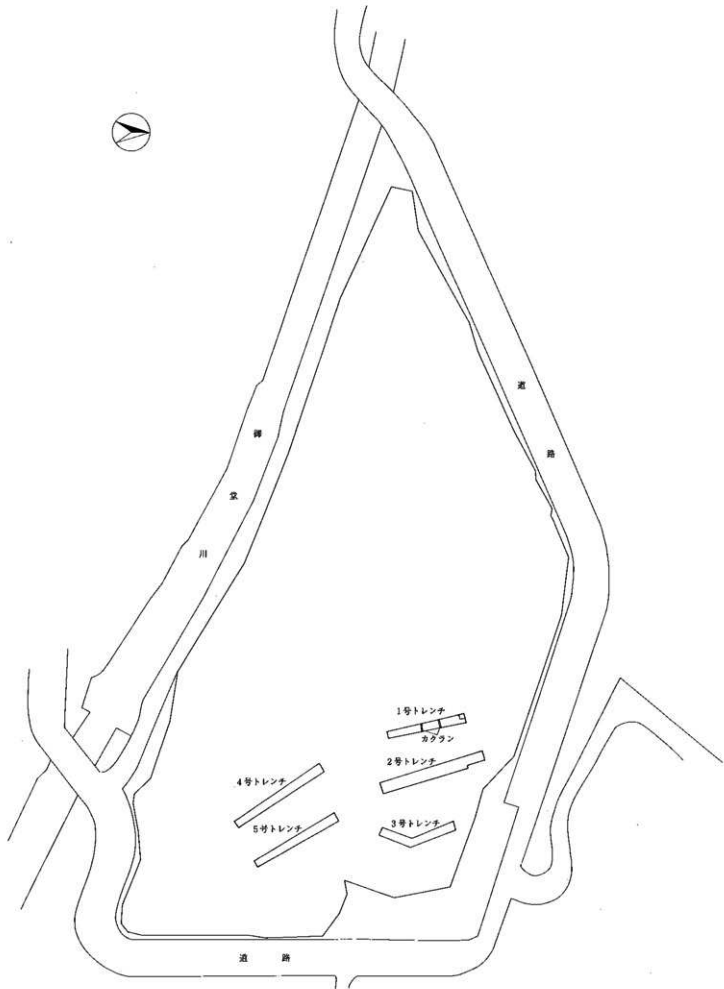


5号トレンチ検出状況 (北西より)



調査区近景 (北より)





試掘トレンチ設定図 (1 : 1200)

## 8 町横尾遺跡1

所在地 坂城町大字南条4780-3他  
事業主体 坂城町都市・下水道課  
事業名 坂都1号線道路改良  
調査期間 平成16年12月3日  
面積 135㎡ (39㎡)  
担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

町横尾遺跡は坂城町の南条地区に所在し、谷川によって形成された扇状地の扇尖部に所在する遺跡である。坂城町遺跡分布図によると縄文時代～平安時代の散布地とされている。

町横尾遺跡では平成8年度に宅地造成事業に伴う発掘調査が実施され、堅穴住居址2棟や掘立柱建物址などが検出され、平安時代を主体とする集落址と位置づけられている。また、対象地には「シロサカ」という字名が存在し、同遺跡内の西側に観音坂城跡が所在する。観音坂城跡は中世に所属する城跡と考えられているが、どちらかというとならぬ方がよいのかもしれない。

今回、坂城町都市・下水道課による坂都1号線道路改良事業が計画された。同事業は現道を拡幅して道路改良を図るといった概要である。そのため、調査対象地は狭小ではあったが、平成8年度発掘調査地点から約50m東に位置していることも考慮し、今回の事業予定地内に遺跡が検出される可能性も高かったので、試掘調査を実施して遺跡の状況を確認することとした。

### 調査の結果

開発は既存の道路を拡幅するといった事



トレンチ掘削状況 (南より)



トレンチ検出状況 (南より)

業計画で、今回の対象地は中之条地区と南条地区の境界となっている「中沢」及びその南側の地籍が開発対象地にあたるが、中沢は沢地形をなしているために遺跡の存在する可能性が低いと考えられた。そのため遺構が検出される可能性の高い地点に1箇所のトレンチを設定し、遺跡の状況を確認した。

対象地の基本層序は表土層の下に、にぶい黄褐色の砂礫層が検出され、この面上層を遺構検出面とした。調査の結果遺構・遺物は検出されなかった。

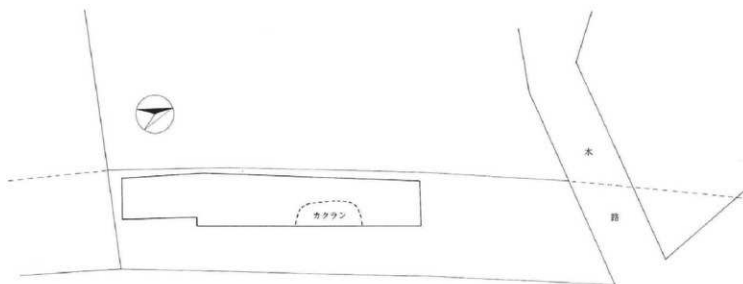
町横尾遺跡は坂城町遺跡分布図に散布地とされており、大きな集落ではなく、数軒の竪穴住居址によって構成される小集落が存在したのではないとも考えられる。今後の調査に委ねたい。



トレンチ検出状況（北より）



基本層序模式図



道 路

試掘トレンチ設定図（1：200）

## 9 町横尾遺跡2

所在地 坂城町大字南条4776-2  
事業主体 坂城町都市・下水道課  
事業名 坂都1号線道路改良事業  
調査期間 平成16年12月21日  
面積 52㎡ (16㎡)  
担当者 助川 朋広



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

町横尾遺跡は、坂城町遺跡分布図によると南条地区の町横尾に所在する縄文時代から平安時代の散布地とされる遺跡である。谷川によって形成された扇状地の扇中部に立地している。本遺跡内では平成8年度に宅地造成事業に伴って発掘調査が実施されており、その調査では平安時代に所属する竪穴住居址2棟や掘立柱建物址、土坑址やピットが検出されたほか、遺物としては土師器・須恵器が出土している。また、本遺跡内の西よりには観音坂城跡が所在し、中世の城館跡とされている。ただし、所謂山頂部に所在する山城跡ではなく、どちらかという同居跡的な意味合いの強い遺跡と思われる。

今回、坂城町都市・下水道課による坂都1号線道路改良事業が計画された。当初の予定では本書に掲載した町横尾遺跡1のみが今回の調査対象地であったが、同事業によって買収された地点に建築されていた土蔵が壊され、新たな土蔵が建設されることとなり、今後新たに遺跡の保護措置が執れないような可能性も予想されたため、急速試掘調査を実施し、遺跡の状況を確認することとなった。平成8年度調査地点から南東に約50m、今年度実施した町横尾遺跡1の調査地点から南に約50mの地点である。



トレンチ掘削状況 (北より)



トレンチ検出状況 (南より)

## 調査の結果

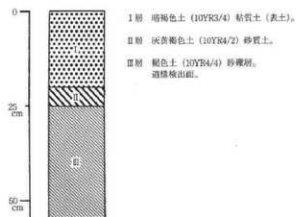
今回の開発計画は、既存の道路の拡幅事業になるため、調査面積も狭小であった。対象地に可能な限り広いトレンチを設定して遺構・遺物を確認した。

対象地の基本層序は3層に分けられ、1層は暗褐色を呈する粘質土、2層は灰黄褐色の砂質土、3層が褐色の砂礫層であった。遺構の検出は3層上面にて行い、地表面から約25cmの深度であった。調査の結果、遺構及び遺物の出土は確認されなかった。

以上のとおり対象地には遺構・遺物は検出されなかったが、今回の試掘調査の実施面積が少なかったことを考慮し、対象地内には遺跡が存在していないということを示す結果とはなり得ない。よって、今後実施する工事に際しては立会い調査が必要となり、今後とも引き続き遺跡の情報を収集していく必要がある。



トレンチ完掘状況（南より）



基本層序模式図



## 10 よつまいざきん 四ツ屋遺跡群 9

所在地 坂城町大字坂城  
9409-2、9410-1  
事業主体 富山 良行  
事業名 集合住宅建設  
調査期間 平成17年1月18日～  
平成17年1月19日  
面積 642㎡ (50㎡)  
担当者 助川 朋広



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と調査にいたる経緯

四ツ屋遺跡群は、坂城町遺跡分布図によると坂城地区の四ツ屋、御所沢に広がる縄文時代から平安時代の集落址とされる遺跡である。

本遺跡は御堂川や入田川によって形成された扇状地の扇尖部及び扇端部に立地している。本遺跡内では今まで宅地造成や集合住宅建設に伴う合計8回の試掘調査が実施されている。

以下に、今までの試掘調査の成果の概要を示しておきたい。平成10年度に実施した宅地造成に伴う試掘調査では、遺物包含層から磨耗著しい縄文土器が僅少量出土し、縄文時代の遺跡がより高い場所(東側)に想定された。平成13年度実施された福祉施設建設に伴う試掘調査では、遺構及び遺物の検出がなく、遺跡が存在していないことが判明した。平成13年度実施したコミュニティ消防センター建設に伴う試掘調査では、時期不明の僅少量の土器の出土や中世頃の石鉢の出土があり、遺構では判然としない落ち込みの検出があった。平成14年度の集合住宅建設に伴う試掘調査では、土坑址とピットの検出があり、僅少量の土器の出土があった。また、同年実施の集合住宅建設に伴う試掘調査では、掘立柱建物址とピットの検出があった。また、同年の店舗建設や農道建設に伴う試掘調査では、遺構・



1号トレンチ掘削状況1 (東より)



1号トレンチ作業状況 (東より)

遺物の検出が見られなかった。平成15年度実施の集合住宅建設にかかる試掘調査では、竪穴住居2棟、ピットの検出があった。

以上のとおり、本遺跡は広範囲に広がる集落址とされているが、実際は集落址としての密度の濃い場所と薄い場所、遺跡の所在していない場所等が存在しており、今までの度重なる試掘調査によって遺跡の状況が徐々に判明してきたというのが実情である。

今回、富山良行氏による集合住宅建設が計画され、試掘調査を実施して対象地の遺跡の有無について確認を行なった。今回の対象地は四ッ屋遺跡群内では南西端部にあたり、今まで実施された同遺跡群での試掘調査地点から、今回の対象地の位置関係を見ると平成14年度実施の店舗建設地点から南に約200m、同じく14年度実施の掘立柱建物址が検出された集合住宅建設地点から約350m東に位置した場所にあたる。

#### 調査の結果

四ッ屋遺跡群は東から西に傾斜する扇状地形であるため、対象地においては東西方向に3箇所のトレンチを設定して遺構・遺物の有無を確認することとした。

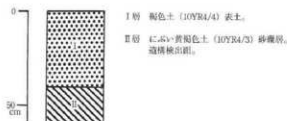
基本層序は表土層の下部に、にぶい黄褐色の砂礫層が堆積しており、試掘調査はⅡ層上面を遺構検出面と判断して、遺構の有無を確認したが、遺構及び遺物は検出されなかった。また、今回の試掘調査は冬季にもかかわらず、少量ではあるが湧水が見られたことも関係し、対象地周辺は縄文時代～平安時代においては集落として利用されなかったことが考えられる。また、対象地は近世の旧北国街道に面しており、周辺での居住は、明らかにその制定後には始まっていたことが、想像に容易いわけであるが、今回の試掘調査においてその当時の状況等を窺い知るための資料も検出されなかった。



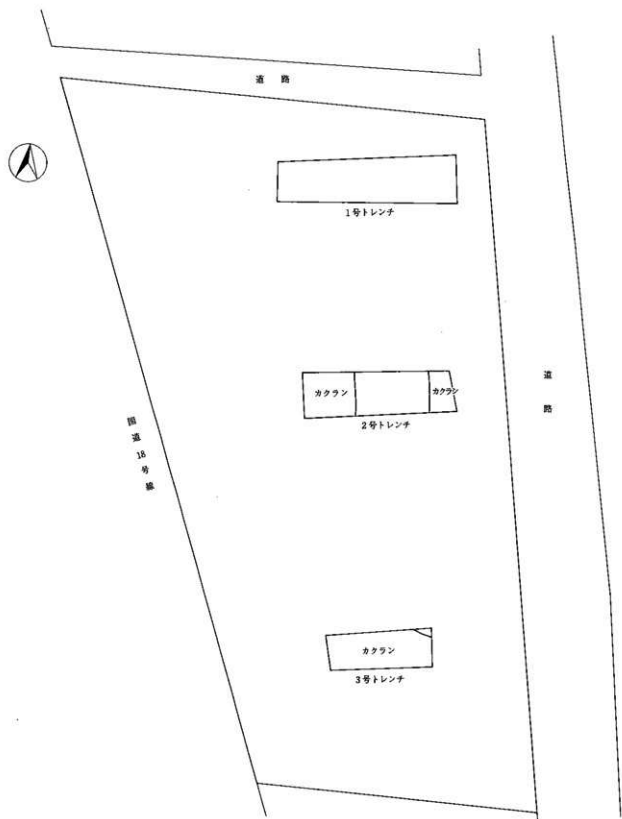
2号トレンチ検出状況（東より）



トレンチ完掘状況（東より）



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 200)



### 第三章 立会い調査の結果

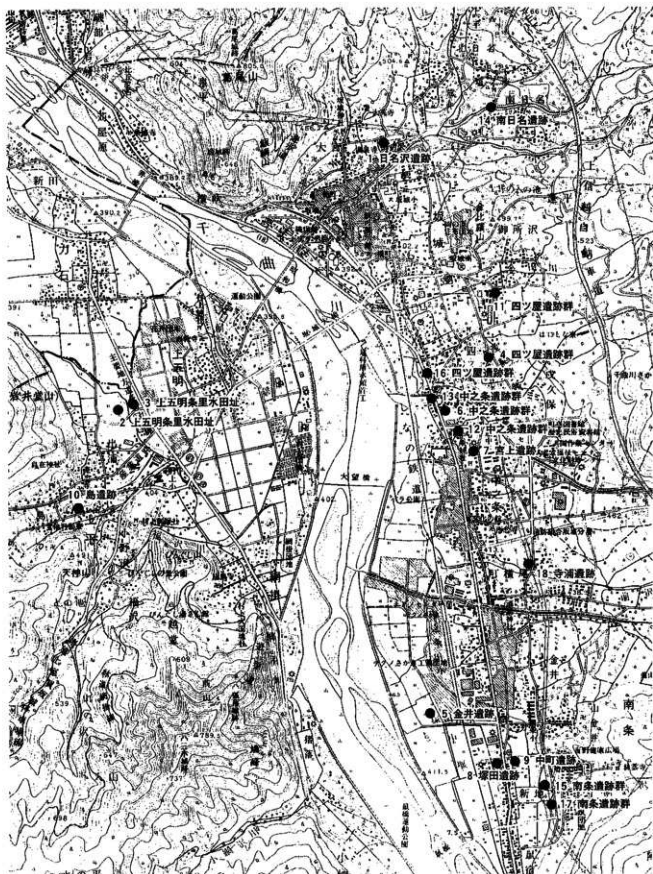
No	遺跡名	開発主体者	所在地	開発原因	開発面積 (㎡)	調査期間
1	日名沢遺跡	伊藤通	坂城1965-1	集合住宅建設	1,223	H16年5月25日、 6月16日
2	上五明条里水田址	㈱竹内製作所	上平176他	工場建設	18,290	H16年8月31日
3	上五明条里水田址	㈱竹内製作所	上平436他	駐車場、資材置場造成	2,232	H16年9月1日
4	四ツ屋遺跡群	色部雄二	坂城9177-5	店舗兼住宅建設	440	H16年9月6日
5	金井遺跡	日精樹脂工業㈱	南条6110-1他	工場建設	111	H16年9月15日
6	中之条遺跡群	吉田興産㈱	中之条2582-1他	ガソリンスタンド(燃料 地下タンク)撤去	776	H16年10月1日
7	宮上遺跡	㈱桜井製作所	中之条918	工場建設	1,044	H16年10月8日
8	塚田遺跡	中部電力㈱	南条6739-1	仮送電電鉄塔設置	55	H16年11月18日、 11月23日
9	中町遺跡	中部電力㈱	南条799他	仮送電電鉄塔設置	55	H16年11月18日、 11月27日
10	烏遺跡	上田水道管理事務所	上平	水道管敷設	450	H16年11月5日、 11月16日
11	四ツ屋遺跡群	㈱柳沢精機製作所	坂城6830-1他	工場増築	1,100	H16年12月17日
12	中之条遺跡群	坂城町都市・下水道課	中之条	下水道	917	H16年12月24日
13	中之条遺跡群	千曲建設事務所	中之条	河川改修	900	H17年1月19日
14	南日名遺跡	千曲建設事務所	坂城4426-2他	河川改修	1,350	H17年1月19日
15	南条遺跡群	千曲建設事務所	南条600-1他	河川改修	800	H17年1月24日
16	四ツ屋遺跡群	富山 良行	坂城9409-2他	集合住宅建設	642	H17年1月27日
17	南条遺跡群	坂城町建設課	南条732-2他	道路改良	550	H17年1月28日
18	寺浦遺跡	坂城町都市・下水道課	中之条1215-1他	道路改良	500	H17年2月1日



5. 金井遺跡立会い調査状況(西より)



11. 四ツ屋遺跡群立会い調査状況(北より)



立会い調査位置図 (1 : 25,000)

## 報告書抄録

ふりがな	さかきちやうないいせきはつかつちやうさほうこくしよ
書名	板城町内遺跡発掘調査報告書 2004
副書名	平成16年度試掘・立会い調査報告書
巻次	
シリーズ名	板城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第25集
編著者名	助川 朋広
編集機関	板城町教育委員会
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡板城町大字中之条2222 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2006年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
白町遺跡群 5	板城町大字板城	20521		36°27'38"	138°11'09"	2004年4月15日～ 2004年4月16日	105	宅地造成
日名沢遺跡群 1	板城町大字板城	20521		36°28'09"	138°11'00"	2004年4月22日～ 2004年4月26日	327	集合住宅建設
込山C遺跡群 Ⅲ	板城町大字板城	20521		36°27'49"	138°10'58"	2004年7月20日～ 2004年7月23日	172	コミュニティ施設 建設
上五明 桑里水田址12	板城町大字上平	20521		36°27'11"	138°09'53"	2004年8月4日～ 2004年8月5日	161	駐車場・資材置場 建設
上五明 桑里水田址13	板城町大字上平	20521		36°27'04"	138°10'00"	2004年8月18日～ 2004年8月24日	139	駐車場・資材置場 建設
宮上遺跡群 1	板城町大字中之条	20521		36°27'03"	138°11'24"	2004年9月7日～ 2004年9月9日	130	倉庫・社員食堂建 設
御安川古墳群前山支群 3	板城町大字中之条	20521		36°26'53"	138°12'22"	2004年9月29日～ 2004年10月1日	436	工業団地造成
町横尾遺跡群 1	板城町大字南条	25021		36°26'34"	138°11'39"	2004年12月3日	39	坂部1号線道路改 良
町横尾遺跡群 2	板城町大字南条	25021		36°26'32"	138°11'38"	2004年12月21日	15	坂部1号線道路改 良
四ッ屋遺跡群 9	板城町大字板城	25021		36°27'18"	138°11'13"	2005年1月18日～ 2005年1月19日	50	集合住宅建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白町遺跡群 5	散布地	古墳～平安	なし	なし	
日名沢遺跡群 1	集落址	弥生～平安	竪穴住居址、竪穴柱建物址、ピット	須恵器・土師器 (古墳～平安)	
込山C遺跡群 Ⅲ	集落址	弥生～平安	竪穴住居址	弥生土器、土師器 (古墳～平安?)	
上五明 桑里水田址12	集落址 生産遺跡	奈良～近世	土坑址、ピット	須恵器・土師器 (奈良～平安)	
上五明 桑里水田址13	集落址 生産遺跡	奈良～近世	なし	なし	
宮上遺跡群 1	集落址	古墳～平安	土坑址、特殊遺構	土師器 (古墳～平安)	
御安川遺跡群前山支群 3	古墳	古墳	なし	なし	
町横尾遺跡群 1	集落址	縄文～平安	なし	なし	
町横尾遺跡群 2	集落址	縄文～平安	なし	なし	
四ッ屋遺跡群 9	集落址	縄文～平安	なし	なし	

## 坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡－第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡－第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』(概報)	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明条里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戊久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山B遺跡ほか 発掘調査報告書1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』	2003
第23集	『豊饒堂遺跡Ⅲ』	2004
第24集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2003』	2004
第25集	『坂城町町内遺跡発掘調査報告書2004』(本書)	2005

---

発行日	2005年3月30日
編集者	坂城町教育委員会 〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222 TEL 0268 (82) 1109
印刷者	信毎書籍印刷株式会社 〒381-0037 長野県長野市西和田470 TEL 026 (243) 2105

---

